【功績の概要】

益子　重介（ますこ　じゅうすけ）
〔民謡、尺八〕

昭和４(1929)年８月 13 日生　（満 97 歳）
宇都宮市在住

氏は、佐藤榮作師に師事し、日本の伝統文化である民謡の伝承を目標に研鑽を重ねながら、伴奏の楽器として尺八も習得し、公益財団法人日本民謡協会の大会等において数々の賞を受賞されています。

民謡指導者として日本民謡協会の民謡・尺八の教授資格を取得し、後進の育成に努め、栃木県芸術祭民謡大会の芸術祭賞受賞者を数多く輩出したほか、宇都宮市教育委員会主催の学校訪問事業「ふれあい文化教室」や、小中学校担当教員向けの民謡講習会で講師を務めるなど、若い世代に向けた伝統文化の発信及び継承にも貢献されています。

氏は、長年にわたり栃木県芸術祭ホール部門及び民謡民舞部会の運営に携わり、参加者が減少傾向にある民謡民舞大会の活性化のため、県内各地域の関係者との連絡調整を図るなど大会運営に尽力される傍ら、日本民謡協会の役員として本県の民謡文化を全国に向けて発信するとともに、各地で行われる民謡大会の審査員としても活躍されるなど、民謡文化の振興に寄与されています。

また、令和元（2019）年度に開催された宇都宮市民芸術祭 40 周年記念行事においては、実行委員として民謡民舞、日本舞踊、ミュージカルなど異なる分野を融合させたステージの開催に貢献されたほか、宇都宮市文化協会、栃木県文化協会の役員を歴任し、民謡民舞部門にとどまらず、文化芸術全体の振興にも取り組まれています。